

令和 6 年度 前年度の改善方策について実行した改善結果

1 学習指導について

学校関係者評価生徒アンケート「先生は、映像やタブレットなどの ICT を利用し、分かりやすい授業をしている。」の項目の肯定的評価が 87.2%であった。高い数値ではあるが、昨年度よりも 4.4 ポイント下回っており、分かりやすい授業につながるような ICT の効果的な活用を再考する必要がある。また、「授業では、考えたことを話し合ったり、発表し合ったりする機会がある。」の肯定的評価は 91.2%で、昨年度とほぼ横ばいであった。講義型の授業から脱却し、まわりと学び合う授業がスタンダードになっている。この結果を授業内で完結せずに、「楽しく、分かりやすい授業」から発展させ、「学びは楽しい」と生徒が実感できるような授業改善を進めていく。

「先生は、提出物やテストなどを分かりやすく評価している。」の項目の肯定的評価が 81.5%で、昨年度より 1.8 ポイント上回り、目標としていた 80%を超えることはできた。しかし、「ペーパーテストの結果＝評価」と思い込んでいる生徒はまだ少なくはない。年度当初に評価基準をしっかりと周知し、日々の学習の成果が評価につながっていることを意識させていく必要がある。

学習指導に関しては、次年度も多様な生徒一人一人の能力、適性に応じた「個別最適な学び」を充実させていく。

2 進路指導（キャリア教育）について

学校関係者評価生徒アンケート「私は、キャリア・パスポートに書いた目標について、考えて行動している。」の項目の肯定的評価は 57.4%で、60%を切り、昨年度より 5.8 ポイント下回った。毎年、「キャリア・パスポート」の活用の工夫を進めてきたが、目標を意識して行動をしていない生徒が多いことが分かる。目標の乱立を避け、分かりやすく実現可能な目標を設定させ、成功体験により将来の希望につながるような「キャリア・パスポート」の充実・活用に努めていく。

また、「自分の進路や将来の仕事について、考える授業がある。」の項目の肯定的評価が 61.2%で、昨年度より 9.8 ポイントと大きく下回っている。教える側もすべての学習や取組が進路や将来につながっていることをより意識し、そのことを様々な場面で生徒に伝えていく必要がある。

3 独自項目について

- (1) 学校関係者評価生徒アンケート「私は、自分自身の良いところを理解している。」の項目の肯定的評価は 73.0%であり、昨年度より 7.7 ポイント上回った。生徒の行動を評価し価値付けることで自己肯定感を高めた成果だと考える。これは学び舎で目標としている非認知能力の向上につながっている。しかし、学び舎に関する項目の肯定的評価は低く、学び舎の連携や活動の見える化が進める必要がある。
- (2) 学校関係者評価生徒アンケート「私は、地域を大切にしている。」の項目の肯定的評価が 81.6%であり、昨年度より 17.5 ポイントと大きく上回った。地域に方々が本校の教育活動に積極的に関わってくださることで、生徒たちの地域を大切にする気持ちも育ってきていることが考えられる。次年度も重点目標として取り組んでいく。